

コース名	東京テックイノベーションプログラム	コマ数	2	時間数	3
科目名	イノベーションマインド実践論	教員名	吉田 敏		
概要	イノベーションは、経済活動の慣行軌道に関する非連続性に基づいた、経済の発展を表す一つの現象であり、技術の変化、市場の変化、組織の変化など様々なものに根ざす可能性を持っている。ここ数年、国内の個々の組織において、今までの経営路線に行き詰まり、閉塞感が語られている感があるが、その反面、イノベーションが実現された明確な事例が多いとは言い切れない。 ここでは、人工物の創造プロセスを理解し、イノベーションをどのように起こすことができるのかという考え方を概説していく。				
目的・狙い	国内において、企業の設計力や技術力が優れているのに、それが利益に結びつかない場合が極めて多い。その一つの理由が、イノベーションに対する取り組みが十分に行なわれてこなかったことが挙げられる。そのためには、体系的に取り組みが必要になってくることを理解し、基本的な考え方について事例を通して体得していく必要がある。 この授業の目的は、イノベーションを実践的・戦略的なレベルで理解するための知識を得ることと、実践するためのスキルに関する基礎的な内容を理解できるようになることである。				
履修条件 (履修数の 上限、要求 する前提知 識等)	特になし				
到達目標	上位到達目標				
	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の社会活動、企業活動における個々の課題を正確に理解し、克服するための方向性を示すことができるようになること。 ・イノベーションという現象を引き起こすための状況に応じた手法を示すことができるようになること。 				
	最低到達目標				
	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の社会活動、企業活動における基本的な課題を理解すること。 ・イノベーションという現象を正確に理解すること。 				
授業実施形 態 (単一また は複数から 構成され る)	形態	○	留意点		
	対面型				
	ハイフレックス型(オンタイム)	○			
	ハイフレックス型(録画併用)				
	録画視聴型				
授業外学習	講義の内容について、教科書、参考書、講義資料で復習すること。				
授業の進め 方(グルー プワーク方 式など、進 め方の特 徴)	・講義の内容について、学生間で議論するために、後半にグループ・ディスカッションを行う。				

	回数	内容	授業実施形態 [対]、[ハ(オ)]、[ハ(録)]、[録]
授業の計画	第 1 回	イノベーションの概要や定義を理解し、基礎的な考え方を把握していく。 また、事例を通して実際のイノベーションを考え、実際に実現させるための課題を認識していく。	[ハ(オ)]
	第 2 回	イノベーションを起こすための可能性を考えていく。 特に、製品やサービスをつくるプロセスから、その可能性を考察していく。	[ハ(オ)]
成績評価	・2 回の小レポートによって評価する。 (講義の時間内に、講義内のポイントについて課題が出され、それを小レポートにまとめて提出する。)		
教科書・教材	・吉田敏編著、『技術経営 —MOT の体系と実践—』、理工図書、2012 年。		
参考図書	・藤本隆宏、野城智也、安藤正雄、吉田敏 著、『建築ものづくり論』、有斐閣、2015 年。		